

## 女性主人公の恋の相手役として設定される 「おネエキャラ」の言語行動について

河野 礼実

2000年代半ばに「おネエキャラ」ブームが起き、テレビのバラエティ番組などでは「おネエキャラ」「おネエタレント」と呼ばれる人物がよく出演するようになった。また、映画や小説などのフィクション作品でも「おネエキャラ」が登場する作品は多数見られる。発表者はこれまでの研究（例えば、河野 2015、2016、2019）で、上述したバラエティ番組に登場する「おネエキャラ」「おネエタレント」、ならびにフィクション作品（映画、ドラマ、小説、漫画）に登場する「おネエキャラ」の言語行動について分析を行ってきた。

そうしたなか、2015年前後から、複数の少女漫画作品において、女性主人公の恋の相手役として登場する「おネエキャラ」を目にするようになった。本発表では、少女漫画に登場する、こうした「おネエキャラ」たちが、どのように描かれているのかを明らかにするため、発表者がこれまでの研究において対象としてきた「おネエキャラ」たちの言語行動と比較をしながら、分析を行った。分析観点は、河野（2015、2016）と同様に、①言語形式（人称、発話末形式、感動詞、依頼・命令・禁止表現）、②言語随伴行動（毒舌、「素」が出る現象）：あることをきっかけに装っていたものがとれて、一時的に“素”の姿が出てしまった（ように演出されている）場面のことを指す。）、③音声、④視覚的要素（装い、しぐさ）とした。また、必要に応じて女性主人公の言語行動とも比較を行った。対象データとして扱ったのは、2015年前後に刊行された漫画4作品である。（『水玉ハニーボーイ』第1巻2014年11月10日第1刷発行、『オネエな彼氏とボーイッシュな彼女』第1巻2015年1月28日第1刷発行、『気弱オネエと騎士乙女の恋愛プロセス』第1巻2016年11月5日第1版発行、『オネエさんと女子高生』第1巻2017年7月23日第1刷発行）そ

れぞれ第1巻の冒頭50ページを対象に分析を行った。

分析の結果は、「女性性」を表す資源を利用しつつ、独自の特徴を持つという点で先行研究と同様であった。また、今回データとして扱った対象者間に共通した傾向も多く観察され、例えば、言語形式としては、自称は「私」「わたし」を用い、発話末の言語形式にはいわゆる「女ことば」とされる「わ」「のよ」「の(平叙文)」「なの(平叙文)」「名詞／形容動詞語幹+ね」「名詞／形容動詞語幹+よ」の使用が全員に見られた。感動詞のバリエーションが豊富で、「あら」「やだ」「もう」系の感動詞がよく用いられていた。また、命令・禁止・依頼発話が、女性主人公に比べると相対的に多く、その表現形式としては「～て」「～ないで」以外に「～なさい」「～てちょうだい(頂戴)」などが用いられていた。なお、先行研究との比較において言語随伴行動や装い、音声の特殊表記に異なる傾向が見られた。音声の特殊表記は、漫画というメディアの特性も大いに関係していると考えられる。具体的には、「ざあんねん」「食べたわよーう」「何回言わすのよーっ」「行きたいわあ～～」のように、語中や文末での母音引き延ばしが(一部は過剰なほどに)表現されていた。

分析結果を踏まえ、ヒロインの恋愛対象としての「おネエキャラ」という存在と、その言語行動において「女ことば」が多用されているという点から見てくることとして、本発表では以下を考察として述べた。

- ・ 「おネエことば」はもはやその人のセクシュアリティとは切り離され、キャラクターの「性格」を表現する言語資源として機能するようになっている。
- ・ 性表現と性的指向を安易に結び付けることなく、それらが切り離され、表現されている例と言える。
- ・ ただその一方で、「おネエ」を通して「女らしさ」を表現していることも確かである。例えば、彼らはいわゆる性別役割分業の考えにおいて女性が得意とされる、料理や裁縫が得意である。彼らを「女性的」なキャラクターとして描くことは、結局「女らしさ」が指し示すものを保持(さらに言えばイメージ強化)することに繋がっていると考えられる。
- ・ また、彼らは言語面においてもジェンダーの指標性が持たされており、

女性主人公の恋の相手役として設定される「おネエキャラ」の言語行動について（河野 礼実）

言うなれば、女が使わなくなった「女ことば」を「女より女らしいおネエ」が使う / に使わせることで、「こういう言葉が『女らしい』のだ」という規範が消えず残されていくことに繋がっているとも考えられる。このことは、「女」以外の手で「女ことば」が保持されているとも言えるだろう。

以上、今回「おネエキャラ」の言語行動の分析を通じて、日本語とジェンダー、セクシュアリティの関わりが改めて浮かび上がってきた。

### [引用文献]

- 河野礼実 (2015) 「“おネエ”のキャラクターの言語行動：ジェンダーを演出する資源のクロスジェンダー的使用——」『社会言語科学会第36回大会発表論文集』30-33.
- 河野礼実 (2016) 「「おネエキャラ」の言語表現について——バラエティ番組とフィクション作品を材料に——」『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015 報告集』151-164.
- 河野礼実 (2019) 「テレビに出演する「おネエタレント」の役割・期待・演出と言語行動の関わり」お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科『人間文化創成科学論叢』第21巻, 23-32.
- マリィ, クレア (2013) 『「おネエことば」論』青土社.

(かわの あやみ・立教大学教育研究コーディネーター)